


自殺予防教育プログラム実施報告書


学校名	北海道余市紅志高等学校
-----	-------------


(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年10月3日(火)	研修参加人数	17人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」「ほっとプラス」の有効的な活用について 【養護教諭を講師に、教職員全員で次のことを協議】 ・ 困難さを抱えている生徒の理解と指導、支援について ・ 過去の結果から大きく変化している生徒への対応について ・ 教室内の「気になる生徒」への対応について 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級担任として、生徒の課題を少しでも早く発見するために、生徒を観察する力を身に付けたいと思う。また、一人で抱え込まず、速やかに報告、連絡、相談ができるようになりたいと思う。 ・ 生徒の現状に関する様々な情報を知ることができ生徒理解が深まった。 		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自殺予防教育の実施に向けて」(道教委) ・ 生徒指導部が作成した子ども理解支援ツール「ほっと」「ほっとプラス」の結果 		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等）	
A 援助希求的 態度の 育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次を対象にLHRの時間で、コミュニケーションスキルや援助希求的態度を育成するために、集団カウンセリングを3回実施した。講師は元北海道医療大学教員の長谷川聡氏である。 ○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの目標を設定し生徒が取組やすいように工夫をした。 ・ 自分、相手そして活動に集中する（コンセントレーション） ・ 誰とでも一緒に行う活動を体験する（オープンマインド） ・ 協力、協働する心地よさと大切さを体験する（コラボレーション） ・ 活動を通して仲間づくりのきっかけをつくる（グルーピング） ○ 生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションスキルや援助希求的態度を育成するための集団カウンセリングを実施したことにより、他者理解をしようとする態度が見られるようになったり、自他を尊重する内的な変化を実感したりしている生徒が見られるなど、コミュニケーションスキルの向上がみられる生徒が増えた。 ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスに同じ意見の人がいることに気がついた。 ・ 対話をするのは、難しいなと思った。これからは色々な人とコミュニケーションを取っていきたい。 ・ 自分の仲間がたくさんいて、楽しかった。色々な個性があって面白かった。 ・ 相づちをしてくれたので、嬉しかったし、話をしやすかった。 	 <p style="text-align: center;">【集団カウンセリングの様子】</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">B 早期の問題認識 (心の健康)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・「余市養護学校」との交流活動を行っている。「生活福祉基礎」では、多様な人々を認め合い、尊重し合う共生社会の実現を目指し、障害のある人と障害のない人が接し理解し合い、共に学ぶことのできる交流及び共同学習を定期的実施している。 ・「農業科目」では、余市養護学校の特別支援教育コーディネーターが本校の生徒に対し、「養護学校の学びの特色」や「障害」、「知的障害」等について出前授業を実施した。また、実際に養護学校の生徒と農作業にも取り組んでいる。 ○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・交流の意義等を十分に理解してから実施している。 ・事前学習で不自由さを実感し、自分たちができる支援に気づき実践しようという意識を育てる。 ・ペアになりコミュニケーションを図る。 ○ 生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> ・会話方法を自分たちで考え、やりとりし、思いを伝え合う様子が見られた。 ・交流を重ねることで、お互いが関わるできるようになってきた。活動の中で自己肯定感を高めていく様子が見られた。 ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・障害があるのに前向きに頑張っている生活をしている。自分も頑張らなければならないと感じた。 ・養護学校について、知らないことがたくさんあった。次はもっと積極的に関わりたい。 ・はじめは関わり方が分からず緊張したが、今は自分と何ら変わらない感じがしている。 	 <p style="text-align: center;">【養護学校との交流活動の様子】</p>
---	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">C ストレス対処能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・1年次のLHRにおいて、「ストレスと上手に付き合おう」と題し授業を実施した。目的はストレスや悩み不安への対処法を学び、心身の健康を保つスキルを身につけるため。 ○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオを参考にしながら「好ましくない相談対応」、「好ましい相談対応」についてペアで演習する。 ○ 生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスや悩み、不安に向き合い、それらについてお互いに相談しあうためのコミュニケーション能力の向上、心身の健康を保つスキルを身につけることが、自殺予防にもつながることを理解していた。 ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・「相談」は大切なことであることが分かった。友だちの話は真剣に聞いてあげたい。 ・相づちを打って話を聞くことが大切であることが分かった。 	 <p style="text-align: center;">【授業での発表の様子】</p>
--	--	--